

第九回漱石記念漢詩大会

受賞作品

最優秀賞

大分県 麟涯 近藤俊彦

津久見灣晨景

つくみわんしんけい
津久見灣晨景

三更秋雨尙霏霏

さんこう しゅうう な ひひ
三更の秋雨 尙お霏霏たり

一陣朝風忽曙暉

いちじん ちようふう たちま しよき
一陣の朝風 忽ち曙暉

杳杳染紅波不盡

ようようくれなひ そ なみつ
杳杳紅に染まりて波尽きぎず

青螺點綴白鷗飛

せいらいでんてつ はくおうと
青螺点綴 白鷗飛ぶ

優秀賞

千葉県 観水 田沼裕樹

過古戰場有感

こせんじょう よき かんあ
古戰場に過りて感有り

馬上少年初裏頭

ばじょう しょうねんはじ こうべ
馬上の少年初めて頭を裏む

英姿早晚取封侯

えいしそうばん ほうこう と
英姿早晚 封侯を取らん

戰雲收處看何物

せんうんおさ とくろ なにもの み
戰雲収まる 処 何物をか看る

折戟空穿野鬪體

せつげきむな うが や どくろ
折戟空しく穿つ野の鬪體

優秀賞

東京都 太冲 岡田 讓

還鄉

きょう かえ
郷に還る

路入郷關星漸稀

みち きょうかん い ほしように まれ
路は郷關に入りて星漸く稀に

一雞鳴處到柴扉

いつけいな とくろ さいひ いた
一鶏鳴く 処 柴扉に到る

家人應在酣眠裏

かじんまさ かんみん うち あ
家人応に酣眠の裏に在るべし

老犬先迎遠客歸

ろうけん ま むか えんかく かえ
老犬 先ず迎う遠客の歸るを

優秀賞

神奈川県 五嶋美代子

街巷明月

街巷の明月

日暮陰沔十二街

日暮れて陰沔 十二街

秋來霜露濕芒鞋

秋來たりて霜露 芒鞋を湿らす

月光不啻照歸路

月光啻に歸路を照らすのみにあらず

掃破劬勞慰客懷

劬勞を掃破して客懷を慰む

優秀賞

静岡県 春城 鈴木崇矩

春日雜興

春日雜興

春風吹暖入茅廬

春風暖を吹き茅廬に入る

倚案童兒就睡初

案に倚る童兒 睡りに就くの初め

夢裏猶懷勤學志

夢裏猶お懐く勤學の志

蝶翎飛繞讀殘書

蝶翎飛んで繞る読殘の書

優秀賞

大阪府 輕舟 鹿児島秀夫

作詩修行

作詩修行

八十壽翁書案前

八十壽の翁 書案の前

賞花弄月潤華箋

花を賞で月を弄して華箋を潤す

推敲幾度君休笑

推敲幾度 君笑うを休めよ

正是苦吟文字禪

正に是れ苦吟 文字の禪なり

佳作

山形県 聽雪 大木拓海

春日病中作

春日病中の作

肺病慊慊服藥丸

肺病慊慊 藥丸を服す

好春時節却無歡

好春の時節 却って歡無し

此身如化成千億

此の身如し化して千億と成らば

海内櫻花盡可看

海内の櫻花 尽く看るべし

佳作

茨城県 杉森千枝美

都下寓居

と かぐうきよ
都下寓居

當年負笈上京華

とうねん きゆう お
當年 笈を負いて京華に上る

一室雨餘時有蝸

いつしつ うよ とぎ かたつむりあ
一室 雨余 時に 蝸 有り

遙望樓臺如櫛比

はる のぞ ろうたい しつび ごと
遙かに望む楼台 櫛比の如し

寓居偏喜遠紛譁

ぐうきよ ひとえ よろこ ふんか とお
寓居 偏に喜ぶ紛譁に遠きを

佳作

茨城県 伯韻 會沢剛史

遣懷

おも や
懷いを遣る

舊年壯氣青雲志

きゅうねん そうき せいうん こころざし
旧年 壯氣 青雲の 志

今日衰顏白髮時

こんにち すいがん はくはつ とぎ
今日 衰顏 白髮の時

自識菲才兼淺學

みずか し ひさい せんがく
自ら識る 菲才と浅學と

空餘酒債與蕪詩

むな あま しゅざい ぶし
空しく余す 酒債と蕪詩と

佳作

群馬県 藝舟 小須田敦子

妙義山

みょうぎさん
妙義山

曉起驚看妙嶽巔

ぎょうき おどろ み みょうがく いただき
曉起 驚き看る妙岳の巔

銀花俄積與雲連

ぎんか にわ つつ くも つら
銀花 俄かに積んで雲と連なる

幽溪一哭孤猿叫

ゆうけい いつくく こえん さけ
幽溪 一哭 孤猿 叫び

獵獵寒風下碧天

りょうりょう かんふう へきてん くだ
獵 獵たる寒風 碧天を下る

佳作

東京都 浦上佳奈

古碑

こひ
古碑

高臺蕪穢亂鴉群

こうたい ぶわい らんあむら
高台蕪穢し乱鴉群がり

詩碣傾欹帶夕曛

しけつ けいき せきくん お
詩碣 傾欹し 夕曛を帯ぶ

錦字芳名磨滅處

きんじ ほうめい まめつ ところ
錦字 芳名 磨滅する 処

紫苔蒼蘚自成文

しだい そうせん おの あや な
紫苔 蒼蘚 自ずから文を成す

佳作

東京都 太冲 岡田 讓

四月

四月 しがつ

清晝一聲聞子規

せいぢゆういつせい 清晝一聲 しき 子規を聞く

當檐新樹綠參差

のき 檐に当たる新樹 りよくしんし 綠參差たり

春歸花謝何須惜

はるかえ 春歸り花謝するも何ぞ惜しむを須いん もち

正是松魚上市時

まさ 正に是れ松魚 いち 市に上る時 とき

佳作

山梨県 栖竹 高山一雄

山村雨後

山村雨後 さんそんうご

薰風度處葛衣輕

くんふうわた 薰風度る處 かついかろ 葛衣輕し

綠樹陰濃碧水明

りよくじゆ 綠樹陰濃やかにして碧水明らかなり へきすいあき

黃鳥也憐新霽好

こうちよう 黃鳥也た憐れむ新霽の好きを よ

村南村北一齊鳴

そんなんそんぼく 村南村北一齊に鳴く な

佳作

山梨県 栖竹 高山一雄

探春山歩

探春山歩 たんしゆんさんぽ

空山獨上拂朝霞

くうざんひと 空山獨り上れば朝霞払う ちようかはら

彼此尋春幽徑斜

ひしはる 彼此春を尋ぬれば幽徑斜めなり ゆうけいなな

一曲溪邊雪敷處

いつきよく 一曲の溪辺雪敷く處 とこ

始知先發款冬花

はじめ 始めて知る先ず発く款冬花 かんとわか

佳作

静岡県 柳村 青野溥芳

消夏雜詩

消夏雜詩 しょうかざつし

三伏炎威聞亂蟬

さんぶく 三伏の炎威 乱蟬を聞く らんせん

山居長日避塵緣

さんきよ 山居 長日 塵縁を避く じんえん

讀書忽倦閑齋裏

どくしよ 讀書 忽ち倦む 閑齋の裏 かんさい

清爽風來高枕眠

せいそう 清爽 風來り 枕を高うして眠る まくら たこ ねむ

佳作

愛知県 西澤稜而

初夏懷君

初夏君を懷う

懷君閒歩日西傾

君を懷うて閒歩すれば日西に傾く

永訣三年哀怨生

永訣三年哀怨生

紫散紅飛春已去

紫散紅飛び春已に去り

閑庭一叫杜鵑聲

閑庭一叫杜鵑の聲

入選

群馬県 桂風 黒澤 洋

歲晚書懷

歲晚書懷

百八鐘聲白髮新

百八の鐘聲 白髮新たに

清貧活計委風塵

清貧の活計 風塵に委す

流年逝水今宵盡

流年逝水 今宵尽き

書室挑詩只待春

書室 詩を挑げ只春を待つ

入選

群馬県 松風 小井土政世

海村冬景

海村冬景

曲岸埠頭寒霧晴

曲岸の埠頭 寒霧晴れ

曉霜如雪數篷明

曉霜雪の如く數篷明らかなり

家家未覺影蕭散

家家未だ覺めず影蕭散

只有危檣水鳥聲

只有危檣に水鳥の聲

入選

群馬県 芳泉 小井土幾代

田園初夏

田園の初夏

雨餘田畝好風吹

雨余の田畝 好風吹き

水滑小橋雲影移

水滑らかに小橋 雲影移る

以食爲天經世業

食を以て天と為すは經世の業

農人今正插秧時

農人 今正に插秧の時

入選

千葉県 幸舟 近藤幸雄

梅雨書懷

梅雨書懷

枇杷黄熟故鄉村

枇杷黄熟す故郷の村

連日濛濛烟雨繁

連日濛濛として烟雨繁し

路上泥深人影少

路上泥深く人影少なり

茅廬軒下燕声喧

茅廬の軒下 燕声喧し

入選

千葉県 禎心 濱村明弘

臺北孔子廟

臺北の孔子廟

一入泮宮塵念忘

一たび泮宮に入れば塵念忘る

廟中處處滿遺芳

廟中处处 遺芳滿つ

大成殿下茂桃李

大成殿下 桃李茂り

十哲孔門如作行

十哲の孔門 行を作すが如し

入選

神奈川県 柴本信子

夏雲

夏雲

夏雲千變自南來

夏雲千變 南より来る

閃閃電光響迅雷

閃閃たる電光 迅雷響く

驟雨轟然檐滴烈

驟雨 轟然として檐滴烈し

早天慈雨絶炎埃

早天の慈雨 炎埃を絶つ

入選

新潟県 阿部輝雄

初夏即事

初夏即事

薰風漾漾洗春愁

薰風漾漾として春愁を洗う

綠樹陰濃晝自幽

綠樹陰濃やかにして昼自ずから幽なり

獨歩村園無客訪

獨り歩む村園 客の訪う無し

詩成喜得復何求

詩成りて喜び 得たり復た何をか求めん

入選

石川県 加茂達子

福浦港

ふくらこう
福浦港

聞説歸帆靺鞨船

きくならく きはん まつかつ ふね
聞説 歸帆す 靺鞨の船

來朝大使貢韋編

らいちよう たいし いへん こう
來朝の大使 韋編を貢す

繁華事絶幾千里

はんか ことた いくせんり
繁華の事絶えて幾千里

交易津頭萬古傳

こうえき しんとう ばんこ つた
交易の津頭 萬古に伝う

入選

岐阜県 大川昌彦

故山看櫻

こざんかんおう
故山看櫻

草堂三月及芳辰

そうどう さんがつ ほうしん およ
草堂 三月 芳辰に及ぶ

花下銜杯幽恨新

かか はい ふく ゆうこんあら
花下 杯を銜めば幽恨新たなり

物變星移人已去

ものか ほしうつ ひとすて さ
物変わり星移り人已に去る

老櫻一樹故山春

ろうおう いちじゆ こざん はる
老櫻 一樹 故山の春

入選

静岡県 柳村 青野溥芳

秋夜吟

しゅうやぎん
秋夜吟

獨出幽庭促織吟

ひと ゆうてい で そくしよくぎん
獨り幽庭に出れば促織吟す

銀蟾皎皎夜沈沈

ぎんせん こうこう よるちんちん
銀蟾 皎皎 夜沈沈

桂香馥郁更添趣

けいこう ふくいく さら おもむき そ
桂香 馥郁 更に 趣を添う

無限詩情秋色深

かぎ な しじよう しゅうしよくふか
限り無き詩情 秋色深し

入選

愛知県 近藤昌彦

探春

たんしゆん
探春

十里東郊千樹梅

じゅうり とうこう せんじゆ うめ
十里の東郊 千樹の梅

天姿清麗爲誰開

てんしせいれい たため ため
天姿清麗にして誰が為にか開く

請看粉翅時時舞

こ み ふんし じじ ま
請う看よ粉翅 時時に舞い

相喚黃袍得得來

あいよ こうほうとくとく き
相喚ぶ黃袍得得として來たるを

入選

愛知県 後藤策太郎

初夏

初夏

山居案句緑陰邊

山居句を案じるは緑陰の辺

自若心閑茶獨煎

自若心閑かに茶独り煎る

燕子歸來疎雨後

燕子歸り来る疎雨の後

薰風簾外聽新蟬

薰風簾外新蟬を聴く

入選

兵庫県 稻邨 見寄權次郎

題山水畫

山水画に題す

雨後新苔路不分

雨後の新苔路を分たず

清流遶屋絶塵氣

清流屋を遶りて塵氣を絶つ

幽人宴坐蒼茫裏

幽人宴坐す蒼茫の裏

仰見孤峰入彩雲

仰ぎ見る孤峰彩雲に入る

入選

鳥取県 濱崎厚子

納涼祭

納涼祭

炎蒸漸鎮日將曠

炎蒸漸く鎮まりて日將に曠れんとし

夜市連帷紅燭紛

夜市帷を連ねて紅燭紛たり

喜色嬌娘輕屐響

喜色の嬌娘屐響軽やかなり

涼風僅亂浴衣裙

涼風僅かに乱す浴衣の裙

入選

徳島県 松毬 姫田照子

初冬偶成

初冬偶成

開爐亥月落楓飛

炉を開く亥月落楓飛び

北鄙柴荊客訪稀

北鄙の柴荊客の訪うこと稀なり

槁悴空庭霜信早

槁悴の空庭霜信早く

温衣購一備寒威

温衣一を購い寒威に備う

入選

高知県 誠心 池幡新也

春遊

しゅんゆう

櫻園萬朶百花春

おうえんばんだ ひやくか はる
桜園万朶 百花の春

左右風光簇軟塵

さゆう ふうこうなんじんむら
左右の風光軟塵簇がる

盡日治遊天欲暮

じんじつ やゆう てんく
尽日の治遊 天暮れんと欲し

一枝插髮醉歸人

いっしかみ さ すいき ひと
一枝髪に挿す 醉歸の人

入選

熊本県 友咲 栗崎咲子

首夏清景

しゅかせいけい

百花飛盡轉清妍

ひやくかと つつ
百花飛び尽くして転た清妍

綠樹成陰絶俗縁

りよくじゆかけ な ぞくえん ぜつ
緑樹陰を成し俗縁を絶す

逐日風和無一事

ちくじつかぜやわ
逐日風和らぎて 一事無し

陽光萬里意悠然

ようこうばんり こころゆうぜん
陽光万里 意悠然たり

入選

熊本県 中野道隆

釋迦涅槃像開眼

しゃかか ねはんざうかいげん
釈迦涅槃像開眼

沙羅花落古禪場

さら はな お こそんじょう
沙羅花は落つ古禪場

黃面瞿曇臥石牀

おうめん くどん せきしょう
黄面の瞿曇 石牀に臥す

一點開明清淨眼

いつてんかいめい しょうじょう
一點開明す 清淨の眼

大千照破放毫光

だいせん しょうは ぼうこう
大千を照破し毫光を放つ

入選

熊本県 有栄 増永 榮

秋夜吟

しゅうやぎん

金風颯颯入高樓

きんふうさつさつ こうろう
金風颯颯 高樓に入る

月照園庭夜景幽

つき えんてい て やけいゆう
月は園庭を照らして夜景幽なり

欣酌今宵三五酒

よろこ く こんしゅう さんご
欣び酌む今宵 三五の酒

殘炎漸去正中秋

ざんえんしょうや さ まさ ちゅうしゅう
殘炎漸く去りて正に中秋

入選

大分県 麟涯 近藤俊彦

孟夏

孟夏

或疎或密秧田雨

或いは疎らに或いは密やかなり秧田の雨

時勁時微麥浪風

時に勁く時に微かなり麦浪の風

閑聽杜鵑聲斷續

閑かに聴く杜鵑声断続するを

郷心不盡落霞紅

郷心尽きず落霞紅なり

若年奨励賞

埼玉県 木浦千尋 (18歳)

梅霖即事

梅霖即事

雨絲環屋竹窗深

雨糸屋を環りて竹窓深し

小院紫陽遊子心

小院の紫陽遊子の心

荷葉蝸牛村路寂

荷葉の蝸牛村路寂たり

一天新霽奏幽琴

一天新霽にして幽琴を奏す

若年奨励賞

埼玉県 雛妃 前久保妃菜 (17歳)

對秋山

秋山に對す

酸漿金粟滿紅裾

酸漿金粟紅裾に満ち

歸雁寒鴉枯木疎

歸雁寒鴉枯木疎なり

蟋蟀濤聲涼意足

蟋蟀濤声涼意に足り

清宵玉兔幾盈虛

清宵玉兔幾盈虚

若年奨励賞

東京都 三村留加 (17歳)

竹徑聞琴

竹徑琴を聞く

逍遙竹徑起琴音

竹徑を逍遙すれば琴音起こる

堂裏佳人月色臨

堂裏の佳人月色臨む

隔箔私聞教客嘆

箔を隔てて私かに聞けば客をして嘆ぜしむ

忽思郷国涙霑襟

忽ち郷国を思い涙襟を霑す

若年奨励賞

東京都 森田結衣（18歳）

写楷書示弟妹

楷書を写して弟妹に示す

嬌童列坐在高堂

嬌童列坐して高堂に在り

林裏静閑漂墨香

林裏静閑にして墨香漂う

可喜紅顔還黒手

喜ぶ可し紅顔還た黒手

雪窓声絶数灯光

雪窓声絶えて数灯光る

若年奨励賞

東京都 山下紗侑（17歳）

与友尋京洛

友と京洛を尋ぬ

桜花万朶梵王宮

桜花万朶 梵王の宮

共駕軽車笑語同

共に軽車に駕して笑語同じ

餅餌茗茶春興好

餅餌茗茶 春興好し

山禽声裏繡衣紅

山禽の声裏 繡衣紅なり

若年奨励賞

東京都 山下紗侑（17歳）

南国納涼

南国納涼

海南三伏汗如漿

海南三伏 汗漿のごとし

久在蝸廬蟬韻長

久しく蝸廬に在りて蟬韻長し

忽有爽風漂藕氣

忽ち爽風有りて藕氣漂う

開窓一望太平洋

窓を開きて一望す太平洋

若年奨励賞

熊本県 寛洲 山本寛太（18歳）

初夏偶作

初夏偶作

故山竹蔭老鶯鳴

故山の竹蔭 老鶯鳴く

柳暗残紅万感生

柳暗 残紅 万感生ず

日暮狂風花尽散

日暮 狂風 花尽く散ず

新鶉一叫惜春情

新鶉 一叫 惜春の情

若年奨励賞

熊本県 寛洲 山本寛太（18歳）

苦吟

苦吟

朝来倚机欲成篇

朝来机に倚り篇を成さんと欲するも

首夏薰風誘午眠

首夏の薰風 午眠を誘う

杜宇一声醒浅夢

杜宇一声 浅夢醒め

揚揚作句聳吟肩

揚揚句を作さんと吟肩を聳やかす

高寿奨励賞

東京都 紫芳 向殿みつ子（97歳）

大雪偶感

大雪偶感

凜然飛雪舞寒空

凜然 飛雪 寒空に舞い

満目玲瓏玉屑濃

満目 玲瓏 玉屑濃やかなり

枯木鳴鴉惟寂寞

枯木に鳴鴉 惟だ寂寞

延延野水暮煙中

延延 野水 暮煙の中

高寿奨励賞

長野県 清山 寺島芳永（88歳）

二航越佐海峽

二たび越佐海峽を航る

積水蒼茫接碧空

積水 蒼茫として碧空に接し

航程七七客船中

航程 七七 客船の中

凝眸島嶼晨光白

島嶼に眸を凝らせば晨光白く

欲没驚波夕照紅

驚波に没せんと欲す夕照 紅なり

高寿奨励賞

長野県 岳峰 寺田 準（91歳）

夏日漱石

夏日漱石

藝林英才雅懷親

芸林の英才 雅懷に親しみ

思索斬新文質彬

思索斬新 文質彬たり

朝詠夕吟和漢韻

朝に詠じ夕べに吟ず和漢の韻

功名富貴去私人

功名富貴去私の人

高寿奨励賞

高知県 白峰 鍋島峯雄（91歳）

秋日山行

しゅうじつさんこう
秋日山行

四圍楓樹黃紅密

しい ふうじゆ おうこうみつ
四圍の楓樹 黄紅密に

九折登來風瑟瑟

きゅうせつつのぼ き かぜしつしつ
九折登り来たれば 風瑟瑟

山寺鐘聲天外流

さんじ しょうせい てんがいになが
山寺の鐘聲 天外に流れ

浮雲一片趁斜日

ふうんいつぺん しゃじつ お
浮雲一片 斜日を趁う

高寿奨励賞

佐賀県 桜敢 副島陽子（92歳）

追憶

ついおく
追憶

離歌一曲埠頭流

り かいつきよく ぶとう なが
離歌一曲 埠頭に流し

出港客船羣白鷗

しゅつこう きやくせん はくおうむらが
出港す客船 白鷗群る

去歲相携翁與媪

きょさいあいたずさ おお おう
去歲相携えし翁と媪

追懷孤杖旅心愁

ついかい こじょう りよしんうれ
追懷す孤杖 旅心愁う

